統合中学校整備に係る室戸高校施設共用についての意見（まとめ）

R6.9.26
室戸市教育委員会
学校教育課

１．各中学校長からの意見

【子どもたちの視点】
- 子どもたちが質の高い教育を受ける条件を整えることは大人にとって大きな責任。
- 中学生と高校生の発達段階と教育課程は全く異なるもの。
- 異なる地域の背景をもつ４中学校が統合したとき、どのような教育活動を行うことが生徒達にとって、それを支える教員にとって有用なことかの視点を第一に考えるべき。
- ４地区が統合することは、それだけで生徒の精神面等のケアは慎重に行う必要がある。
- 統合中学校は全ての児童・生徒が「統合中学校に進学したい」と思える施設でないといけないし、保護者や地域の方々にとっても魅力のある施設でないといけない。
- 倹約の視点は必要であるが、これからの未来を担うこどもたちへの教育環境について経費優先でない配慮を期待する。
- 市民の費用負担の軽減も大切だと思うが、統合校に期待や魅力を感じなければ他地域への進学や将来の室戸市の人口減少も心配される。

【普通教室の配置】
- １学年１フロアが理想ではあるが、統合中学校の校舎案は、１・２年が同じフロアであるものの動線やトイレの配置などの配慮がされているし、それが当然。
- 統合初年度のみの問題でなく、統合後も各地域から進学してくる中学校１年生のためにも配慮が必要（他地域の先輩も知らない状況で３年生と同じ階での生活は新入生にとって大きなストレスやプレッシャーの原因にもなりうるし、不登校生徒が増える可能性がある。高校生との動線を避けることは勿論、中学生の動線の配慮も必須）
- 小人数や分割指導用の教室も必要（英語、数学等は１クラスを２つに分割した授業も検討必要なため）
- 中学生（特に１年生）にとって、４階での学校生活や共用施設との距離が最適な教育環境にない。

【トイレの配置】
- 室戸高校の４階に全学年配置となるとトイレに行くことにプレッシャーを感じる生徒（１年生や配慮が必要な生徒）が必ず出てくる。その生徒は別フロアのトイレを許可してあげることにしても、今度は高校生との併用になるので余計にプレッシャーを感じる状況になってしまう。多機能トイレについても配慮が必要。

【配慮が必要な生徒への対応】
- 配慮の必要な生徒（不登校、発達障害等により通常学級にいても支援が必要な生徒）に対応できる空間（小部屋等）が必要であり、他生徒と交わることの少ない動線かつ、教員が即座に情報共有し、対応できる距離が必要であるが、提案内容では対応が困難。

【特別教室】
・理科室や技術室を高校と共用すると、道具の保管等の場所や必要な道具の教室配置が困難ではないか。理科は各学年２クラスだと週に２２時間授業となるが、観察や実験の場合は事前準備や事後の片づけ等で理科室を使用する場合が多いため、中学校単独で使うことができる教室が必要。
・中学校専用施設として図書室、技術室、美術室準備室、音楽室準備室も必要。
・すべての特別教室について高校生との接触を避けるために、中学生が使用する時間の事前・事後の時間は高校の授業を入れることは避けるべき。

【職員室、保健室】
・県立中学校とは違うため職員室や保健室の共用は不可能。市立中学校と県立高校の職員室共用は高校入試の観点や生徒の個人情報、成績情報等の流出防止の配慮が必要。
・保健室はケガや体調の悪い生徒のみが来室するのではなく、心のケアや相談活動の場としても使用することがある。そのため高校との併用は難しい。
・保護者対応や不登校傾向の生徒対応等で職員室は１階の玄関付近が良い。職員室が４階等になると保護者は学校の敷居が高くなり、不登校傾向の生徒にとっても更に登校しにくい状況になる。現在、不登校傾向の生徒が登校してきた場合、玄関で教員が即対応して別室に一緒に移動する等の配慮をしているが、玄関から職員室が遠くなるとそのような対応が不可能である。

【その他の教室等】
・給食室は衛生管理の観点から他教室との併用は避けるべきである。室戸高校使用案では普通教室以外に必要な設備の配置が難しいのではないか。
・生徒用の更衣室の確保

【教職員の視点】
・高等学校施設である以上優先権は高校となることは明白であり、学校行事等（入学式、卒業式、文化発表会、体育大会、入学試験日）において準備や練習時間の確保及び中学校と高等学校の調整に多大な労力が必要となる。
・職員用のトイレや更衣室、印刷室、会議室等の確保ができるのか。
・中学校専用で使用できる特別教室がなく、常に高校側との時間割の調整が必要で、中学校独自の日々の教育活動が組みにくく、支障が生じることが容易に想像できる。
・部活動を含め共用する施設調整の難航は予想され、中学校は高校に遠慮せざるを得ない。
・プールの水深は、10cm の差でも命預かる学校として　安全管理は重要

【その他】
・嶺北中や、県立安芸中については、同居連携型や中高一貫校として、中学校教育にも配慮した環境整備が整えられているが、今回の室戸高校共用の提案は、まず、経費ありきで、限られた施設の中に新中学生を当てはめようとしている。
・室戸高校の存続にむけて、中高連携、一貫校との思いがあるとしたら、今回の統合の意図・目的とは違った論点になるので、整理して分けて考えていただきたい。
・各地域の是や非の思いを受けてスタートするものなので、新設中学校がすべての生徒にとって居心地よく、居場所のある学校となり、教員にとっても働きやすく、室戸市の教育課題解決につながる学校として環境整備をお願いしたい。

２．教育委員からの意見

・令和３年９月に室戸高校を共有したいと室戸市側から相談したけれど、令和４年５月末に共有が難しいから室戸高校近くで検討すると県教委に報告しているので、その時点で一旦話は終わっていると思うが、なんで今更なのか。
・県教委は、高校の生徒減少とか将来を見て、同居連携型に持っていく意向があるようにも見えるが、一旦県教委との協議は終わって、地域で討議して、やっと統合が決まって、今進んでいる中で、せっかく良い学校を作ろうと前向きになって、子どもや地域のことを思って、保護者の願いとかで進んでいるのに、なぜ今更と思う。
・一つ一つ丁寧にこういった理由で受け入れがたいということを説明していくしかない。
・現場（学校長）の意見、これが全てで、誰も一言も良いところを言っていない。
・理解してもらわないと、ただ無駄遣いをしているととられかねない。
・正しいかたちの中高一貫校にできればいい交流もできるし、室戸高校の進学率も上がるかもしれないが、仮住まいみたいに４階に詰められて、特別な配慮のいる子どもたちのことも考えなしで、現場を分からず机上の論理で混ぜ返されている。
・早い段階で説明しないと誤解だけが先走ってしまう。
・令和４年５月に終結していて、なぜ今か。地域によっては、何時間も何回も説明会等をしてきたなかで、前向きに進めて良い学校をつくろうと進んでいるなかで、士気が下がる。保護者、地域の方も今更となると思うが、（この提案を）止めることはできないのか。
・この提案は、明らかに対等ではない。一番肝心な生徒のことを全然念頭に入っていない。
・室戸高校を使うというのではなく、今進めていることを進めて欲しい。そういうことで地域との説明会をずっとしてきているので、今の状況で進めて欲しい。